

**基幹対策**

**治水対策**



- ◆本県は周囲を3,000m級の山々に囲まれ急峻な地形を有しており、それらに源を発する諸河川は急勾配で主要河川に到達するまでの距離（時間）が短いことから、これまで台風等の豪雨により河川の氾濫等でたびたび被害が発生
  - ◆水害に対する強靱化を図るには、ハード・ソフトが一体となった流域治水による対策の推進が必要
- ハード対策では、水害が発生した20河川において、堤防整備や河道掘削など約4,300mの河川整備を集中的に実施

## □本県が抱える水害リスク



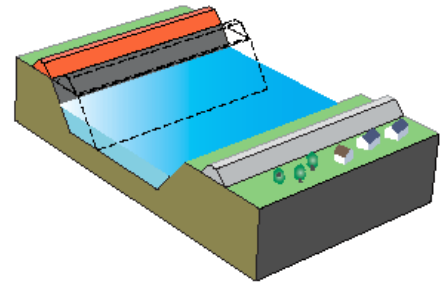
日本三大急流 球磨川（熊本県）の氾濫  
人吉市付近の被災状況（堤防損壊）

出典：国土交通省HP

## □ハード対策の取り組みの具体例

### ○堤防整備（引堤）

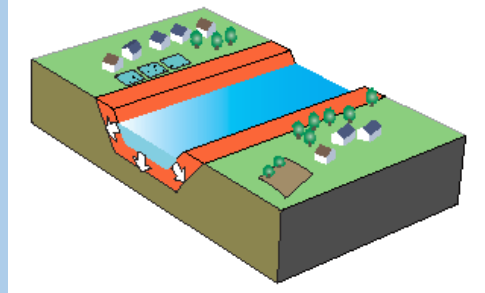
堤防をつくり、川幅を広げることで河川の水の流れる断面を大きくして水位を下げる。



< 鎌田川、芦川 >

### ○河道掘削

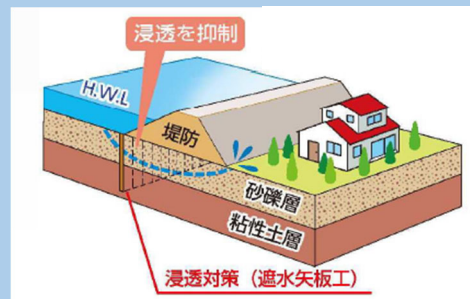
河川を掘削して水の流れる断面を大きくして水位を下げる。



< 濁川、藤川、高倉川、貢川、湯川、流川、平等川、渋川、八条川、古川、入山川、朝日川、寺川、新名庄川 >

### ○堤防補強（浸透対策）

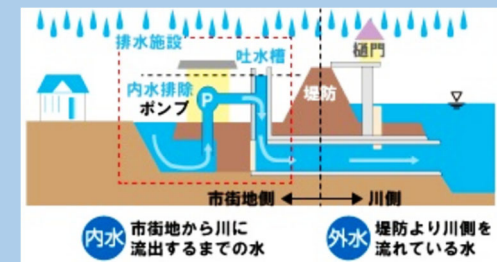
洪水による堤防への浸透・浸食作用に対して安全な構造とする。



< 浅利川、境川、狐川 >

### ○河川管理施設整備（排水機場等）

市街地側に貯まった水を強制的に河川へ送り出す。



< 間門川、横川 >

# 治水対策 堤防整備（一級河川鎌田川 中央市～甲府市）

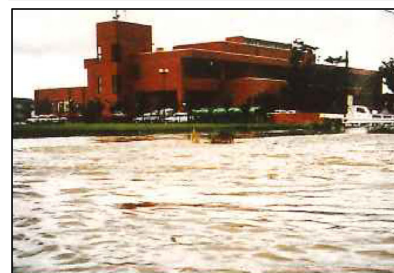
◆中央市～甲府市を流れる当該区間は、断面が狭小であったことから、溢水により床下浸水20戸等の被害が発生（S58.8台風）  
 50年に1回の降雨（61mm/h）を安全に流すことを目標に堤防を整備し、河川断面を大きくして水位を下げる治水対策を実施  
 これにより、約150ヘクタールの浸水被害を防止し、水害に対して強靱化  
 また、リニア新駅周辺の安全安心を確保

## □位置図



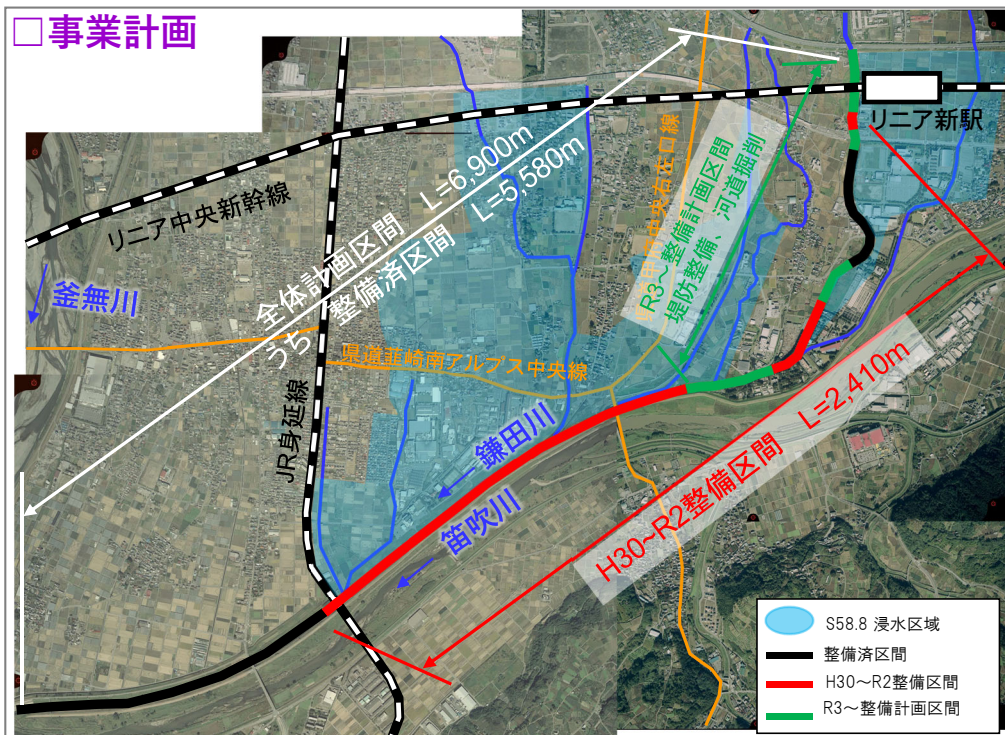
## □過去の浸水被害

昭和58年8月台風  
 （時間最大降水量26mm）

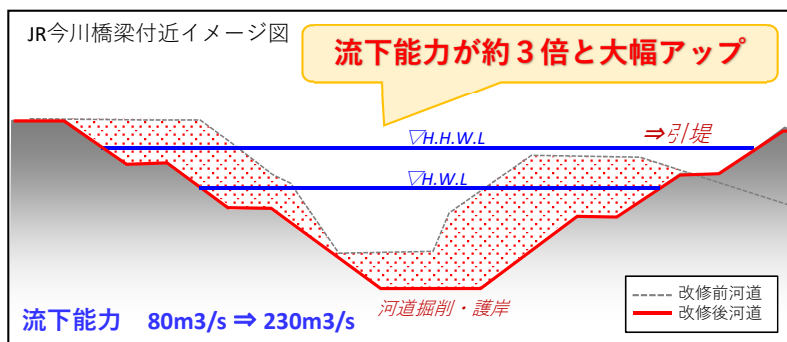


被害実績：床下浸水503戸、  
 床上浸水37戸、道路冠水

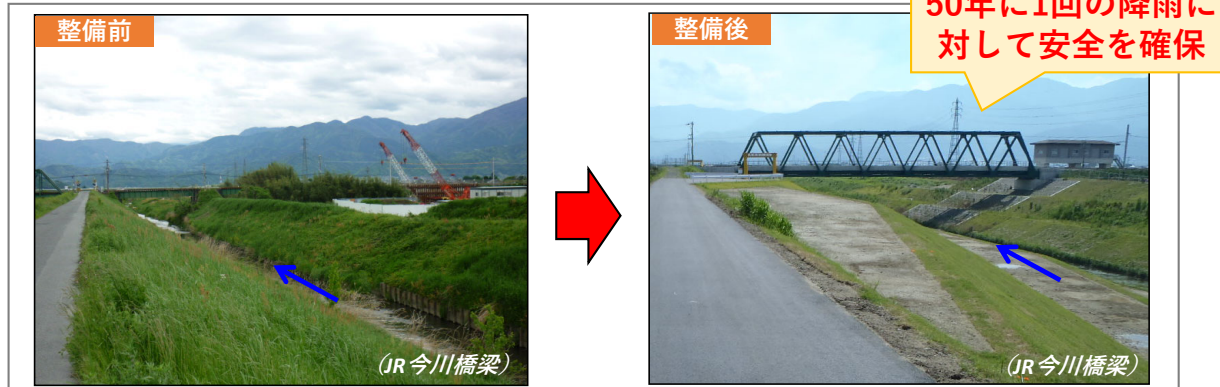
## □事業計画



## □整備イメージ



## □整備効果（H30～R2整備区間）



◆市川三郷町の市街地を流れる当該区間は、甚大な被害とはならなかったが、堤防が決壊し浸水被害が発生（H23.9）

この洪水を安全に流すことを目標に堤防を整備（引堤）し、河川断面を大きくして水位を下げる治水対策を実施  
これにより、日降水量347mmを記録した令和元年東日本台風においても浸水被害を防止し、水害に対して強靱化

## □位置図



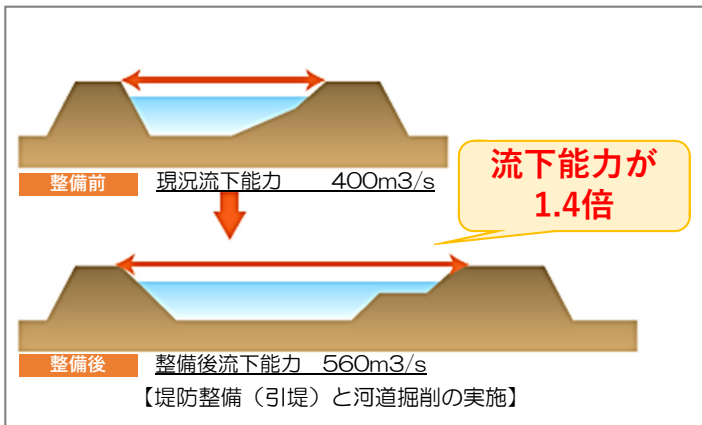
## □過去の浸水被害



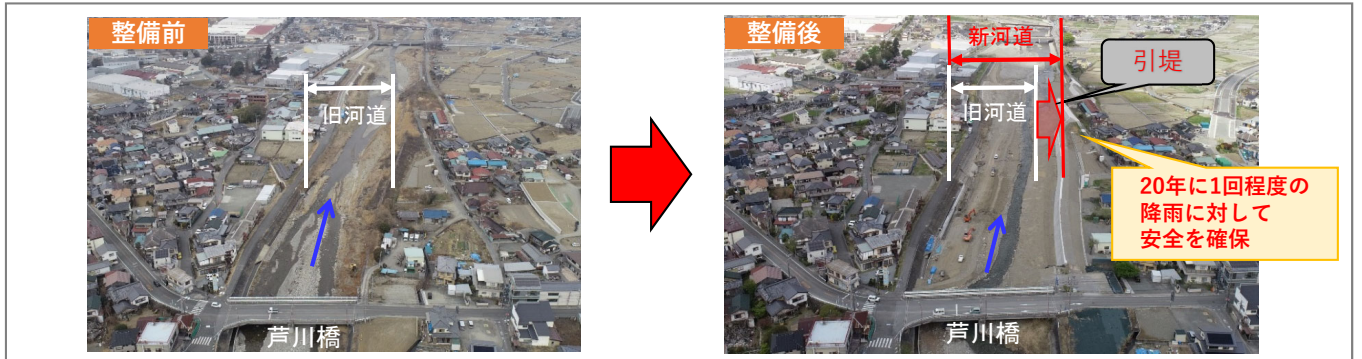
## □事業計画



## □整備イメージ



## □整備効果（整備区間）



# 治水対策 河道掘削（一級河川藤川 甲府市）

◆甲府市街地を流れる当該箇所は、沿川に人家が密集し断面も狭小で支川と直角に合流していたことから、床上浸水31戸等の被害が発生（H12.9）

同規模の洪水を安全に流すことを目標に、河川断面を大きくして水位を下げる治水対策を実施  
これにより、時間降水量30mmを超過する降雨（R2.7）においても浸水被害を防止し、水害に対して強靱化

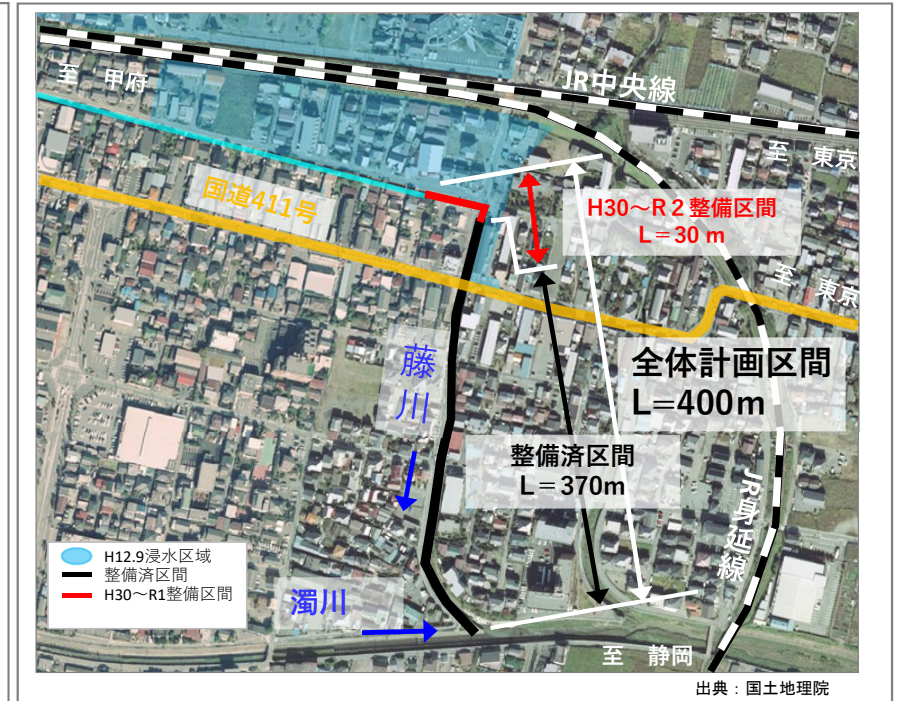
## 位置図



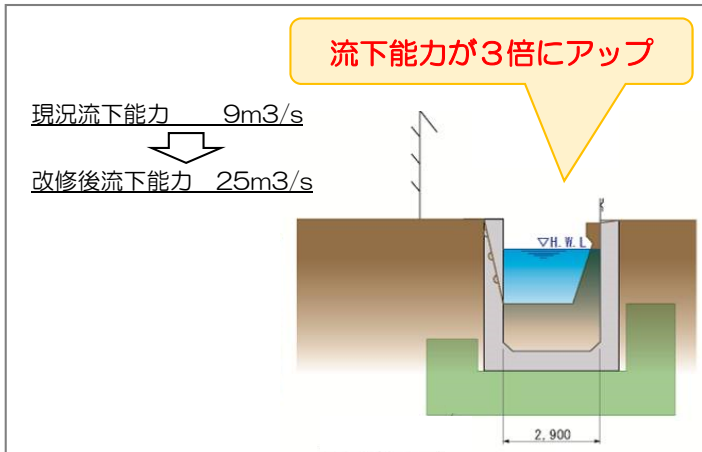
## 過去の浸水被害



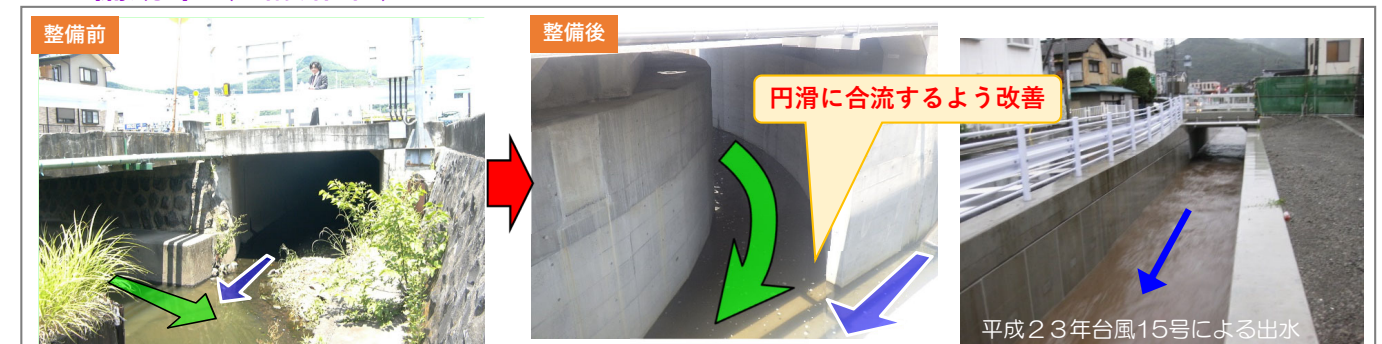
## 事業計画



## 整備イメージ



## 整備効果（整備済区間）



◆ 笛吹市を流れる当該区間は、断面が狭小であったことから溢水により、床下浸水28戸等の被害が発生（H12.9豪雨）

10年に1回の降雨(45mm/h)を安全に流すことを目標に、河川断面を大きくして水位を下げる治水対策を実施  
これにより、時間降水量30mmを超過する降雨（R2.7）においても浸水被害を防止し、水害に対して強靱化

## □ 位置図



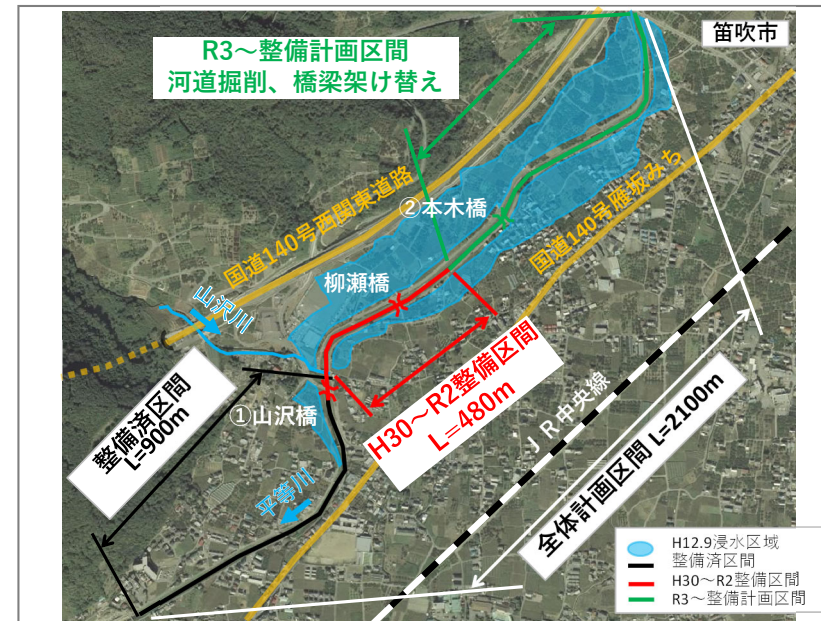
## □ 過去の浸水被害

平成12年9月豪雨(時間最大降水量26mm)

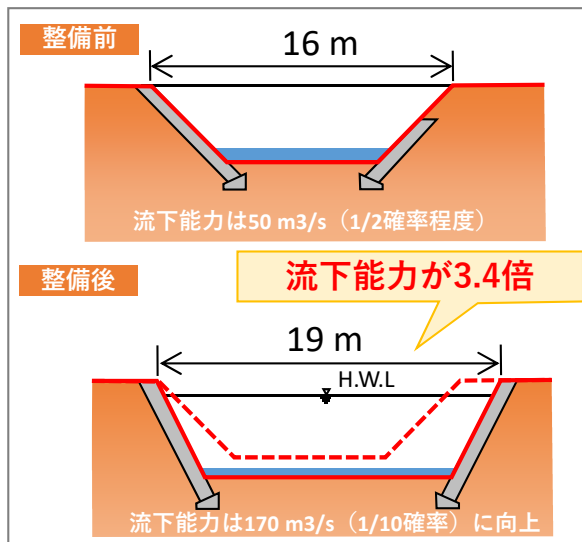


被害実績：床下浸水28戸、田畑、道路冠水

## □ 事業計画



## □ 整備イメージ



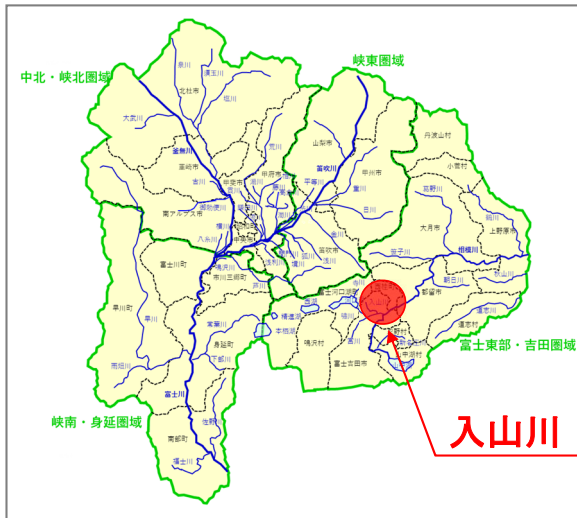
## □ 整備効果（整備済区間）



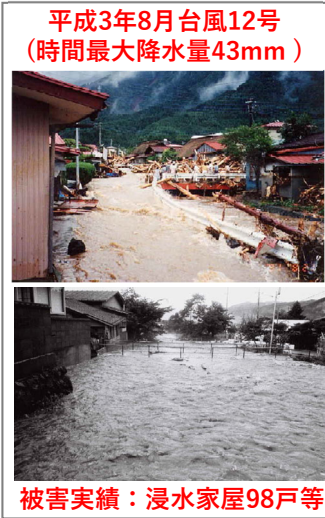
# 治水対策 河道掘削（一級河川入山川 富士吉田市）

◆富士吉田市を流れる当該区間は、断面が狭小であったことから、溢水により浸水家屋98戸の被害が発生（H3.8台風12号）  
 20年に1回の降雨(67mm/h)を安全に流すことを目標に、河川断面を大きくして水位を下げる治水対策を実施  
 これにより、約7ヘクタールの浸水被害を防止し、水害に対して強靱化

## □位置図



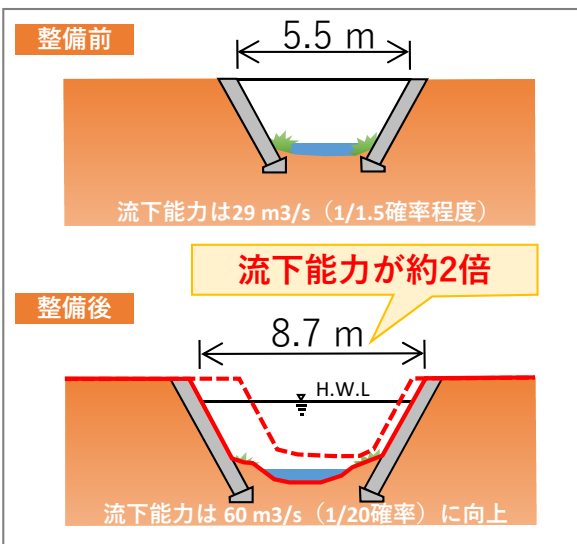
## □過去の浸水被害



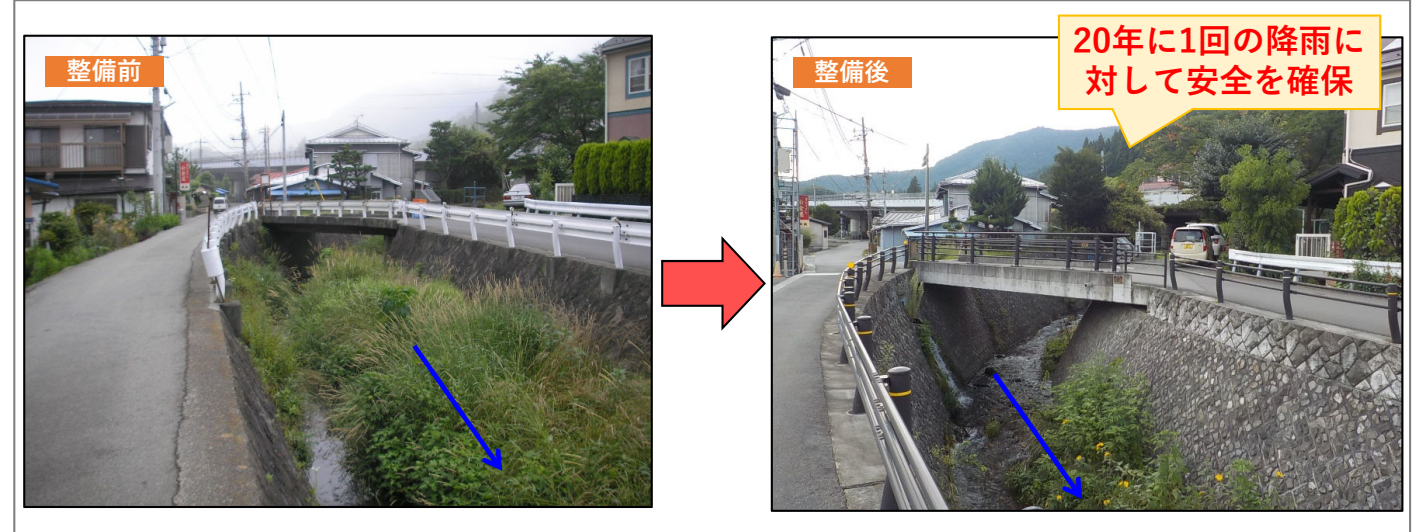
## □事業計画



## □整備イメージ



## □整備効果（整備済区間）

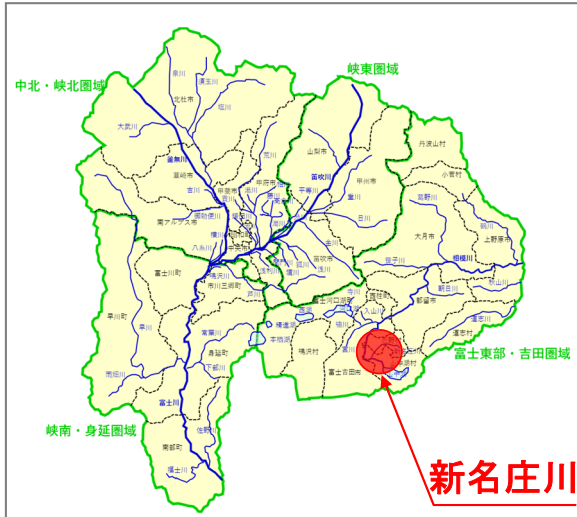




◆忍野村を流れる当該区間は、断面が狭小であったことから、溢水により家屋浸水等の被害が発生（H23台風15号）

H23台風15号と同規模の降雨を安全に流すことを目標に、河川の断面を大きくして水位を下げる治水対策を実施  
これにより、浸水被害を防止し、水害に対して強靱化を図るとともに、観光地としての質的向上と交流客拡大を目指す

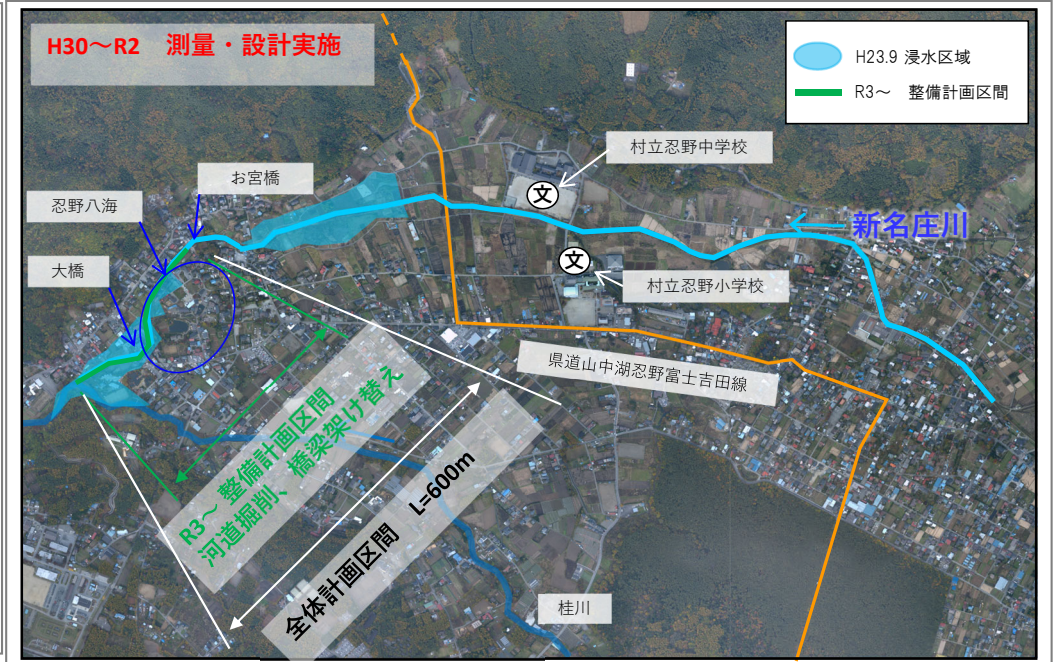
### □位置図



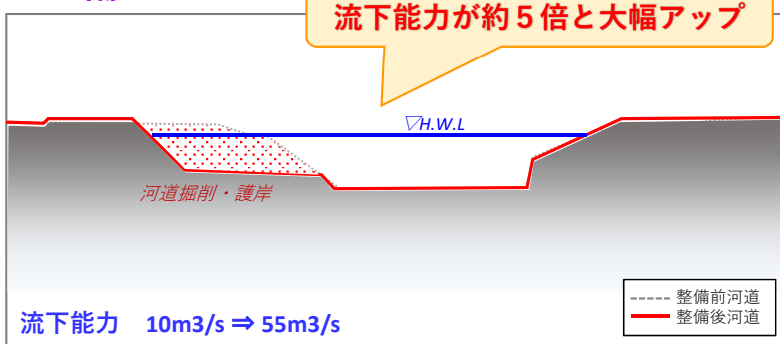
### □過去の浸水被害



### □事業計画



### □整備イメージ



### □整備効果（整備計画区間）



### ◆甲府市を流れる当該区間は、断面が狭小であったことから、溢水により浸水家屋18戸等の被害が発生（H12.9豪雨）

これまでに、H12.9月豪雨、H23台風15号などで浸水被害が発生  
 被害の発生を受け、10年に1回の降雨（45mm/h）を安全に流すことを目標に、河川の断面を大きくして水位を下げる治水対策を実施  
 併せて、笛吹川の水位が上昇した際にも強制的に排水するポンプ施設の整備し、水害に対して強靱化

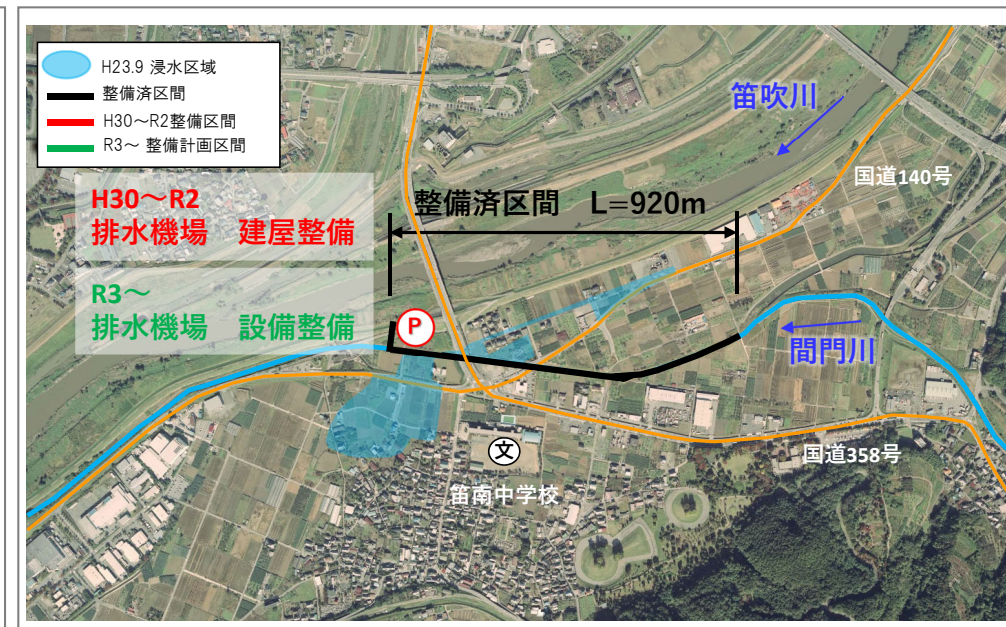
#### □位置図



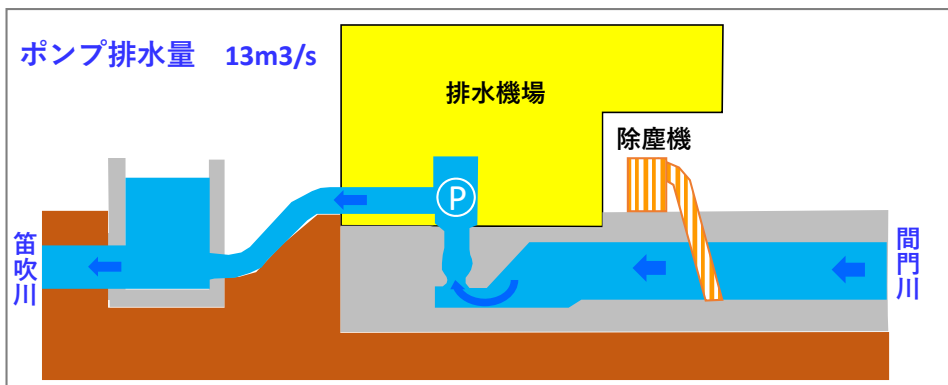
#### □過去の浸水被害



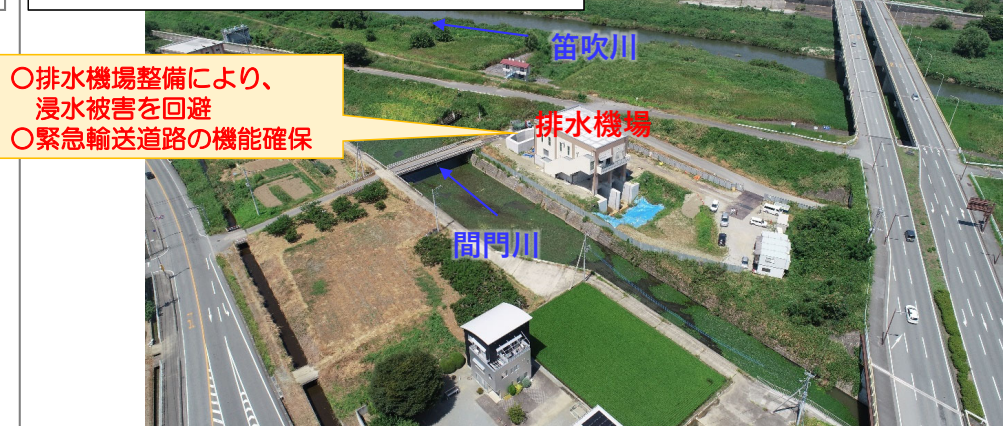
#### □事業計画



#### □整備イメージ



#### □整備効果（H30~R2整備箇所）

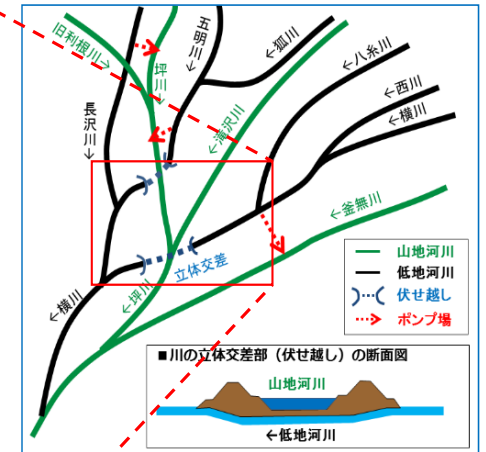
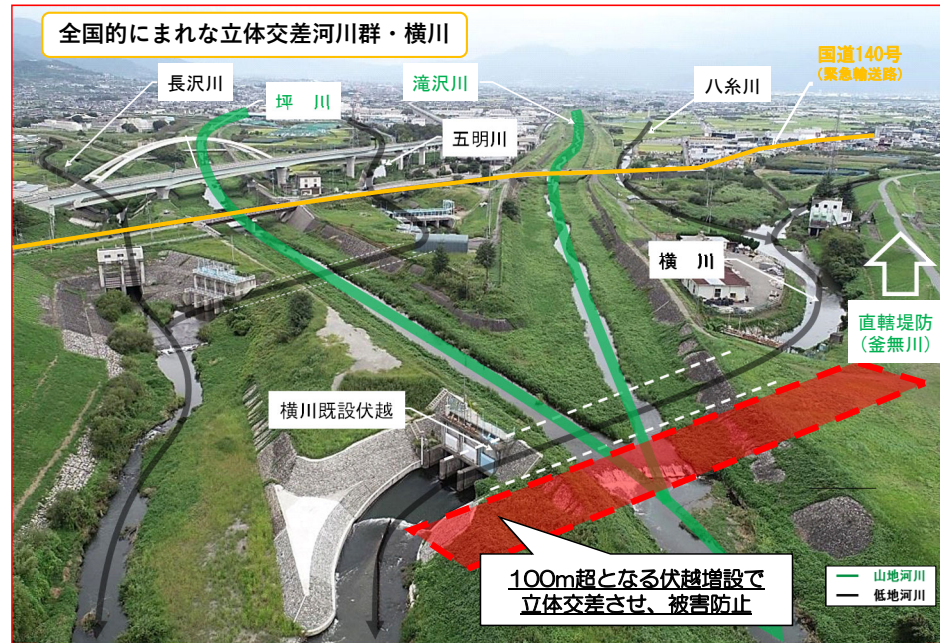


- ◆南アルプス市の南端に位置する当該地域は、様々な河川が集中・立体交差するなど顕在的に水害リスクが高いエリア
  - ◆釜無川の水位影響や既設伏せ越しの断面が狭小であることから、浸水被害が発生（S57.8台風・H23.9台風）
- S57.8台風10号と同規模の降雨でも安全を確保することを目標に、伏せ越しを増設するなど流域治水対策の検討に着手

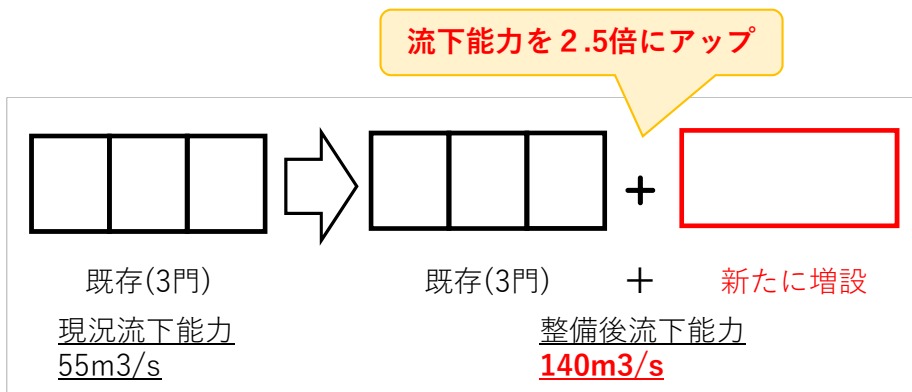
## □位置図



## □事業計画



## □整備イメージ



## □過去の浸水被害

昭和57年8月台風10号  
(総雨量211mm)



平成23年9月台風15号  
(総雨量154mm)



# 治水対策 堤防補強（一級河川浅利川 中央市）

◆中央市を流れる当該区間は、堤防付近で原因不明の水がしみ出たため、調査を実施したところ、地盤の一部に浸透しやすい層を確認

洪水時の堤防決壊などに対して安全を確保することを目標に、鋼矢板で遮水する堤防の補強対策を実施  
これにより、320ヘクタールの浸水被害を防止し、水害に対して強靱化

## □位置図

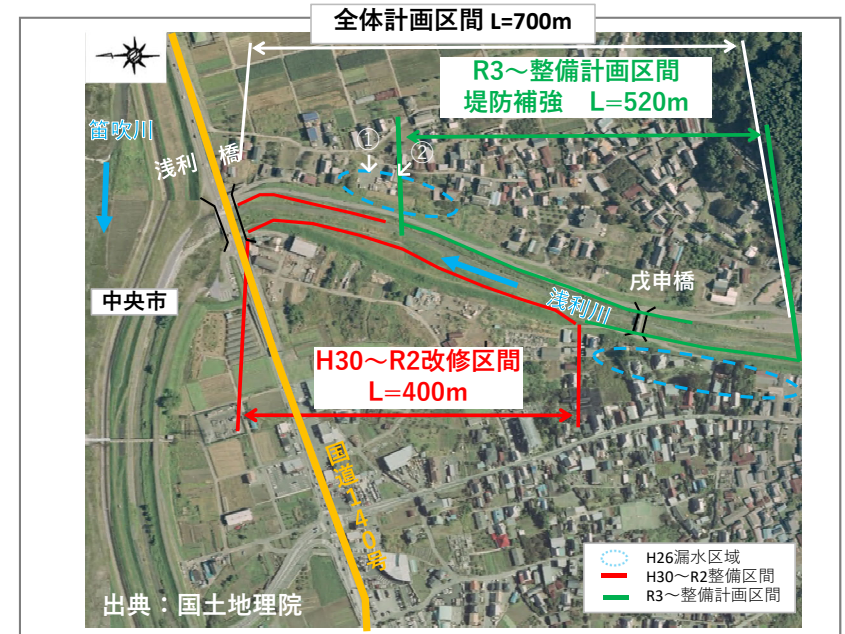


## □過去の漏水状況

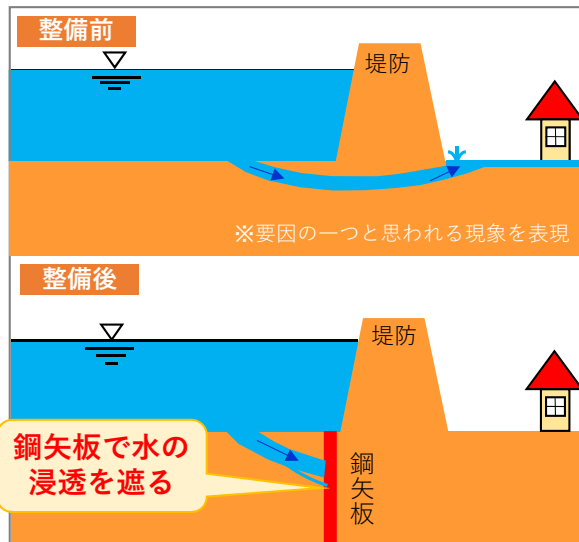
堤防付近で原因不明の水のしみ出し(H26)



## □事業計画



## □整備イメージ



## □整備効果

